
有馬皇子

水乃ヘルギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

有馬皇子

【Nコード】

N0295A

【作者名】

水乃ヘルギ

【あらすじ】

小説ではないかもね。こういうの書くとなぜか説明的になるんですわ。笑

有馬皇子。

従者が有馬温泉の出身だったから、有馬とつけたらしい。

……うおお！　なんて単純なんだ！　古代は。

さて、これからお話しする物語は、天武と有馬が対立し、立場の弱い天智がいて、というもの。

結果だけを追求すれば、有馬皇子は悪くなかったように思うんですねえ、これが。

有名な、

「赤兄あかえに聞け。さすれば、すべてわかつろう」

蘇我赤兄。

彼はいつたい、なぜ有馬を裏切る人物としてでてきたんだろう？
調べたつもりんだけど……。

……
わかったことは、天武天皇が絡んでいたことくらいだった……

井上靖が額田王書いたけど、うう、有馬皇子、切なすぎ！

私は昔、神官の資格を取るために、ひたすら神道学などを学んだんですが、いやー、なんかだめ。

皇學館と國學院大學といって、その神道学科という場所を受験したんですが、あのころはドイツ語も学びはじめで、受験対象としてはちよつと学力不足だったせいか、ちよつとアウト。

国学院ならドイツ語はできました。

でも皇學館は英語！　がーん。

英語、実は読めません。

ドイツ語できるんだから英語もできるだろうって、それは器用な人間に対して言う言葉ですな。笑

私は不器用にしか生きられないのさっ。はっはっは。

そんなわけで、自分の力でしか神道を学ぶことができず、あせりました。

今は哲学科です。

そんな私の書く古代日本。

ぜってーうそくせーから 笑。

有馬皇子は、孝徳天皇の息子。

こまかいくだりは、無論詳しくないけれど、要するにこの時代はよそからの侵略を防ぐために、戦ってもいたし、蘇我と物部の争いも少し昔にあって、とにかく荒れていたってことらしい。

そのうえ、内乱。

中大兄皇子（葛城皇子）が蘇我入鹿の首を、皇帝、じゃなかった皇極天皇のまえではねたことから、はじまった事件も……。

いやはや、ほとんど忘れてしまつて知識が追いつかない。

このころ、つまり天智天皇が治めるころには、宗教の暴動もやんでいた。

少し話を飛鳥時代に戻し。

思うんですが、なんで宗教は戦争を巻き起こすのでしょうか。

神のせいにするのはどうかと思うわけですが……絡んでいないこともないんじゃないかなあ。

インド思想や中国思想を取り入れてきた聖徳太子と、古来からの神道を守り続ける物部。

二つの思想はぶつかり合い、結果として融合。

しかしこの融合には問題があった。

神道に道教、儒教を取り入れた結果、本来の神道として成り立たないものと、なってしまったわけです。

これ以降だと度会家行（この人の大ファン）の時代にまでとぶので、ストップ。

さて、舒明天皇が崩御した後、かるのみこ軽皇子つまり孝徳が即位した。しかし、孝徳天皇はお飾りであった。

いや、多くの天皇がそうであったように、彼もまた、傀儡の一人だったんですな。

踊らされたってわけ。

そして病に臥せった孝徳を見舞うこともせず、葛城皇子はしらんぷり。

孝徳天皇は幼い有馬にこう告げたのだった。

「お前の母も葛城のものだし、吾あは、さみしい………」

もしかしたら、ここで有馬は復讐を考えたかもしれない。

父を見放して見殺しにした、葛城たちに対して。

だから、年頃になった有馬は、蘇我赤兄とともに、クーデターを起こそうとしたんだろうと。

じつは葛城、皇位を狙ってはいたものの、孝徳天皇を殺してしまつたために即位できずにいたわけよ。

見殺しにしたとか言われてね。

そのせいで、葛城は赤兄に金握らせて、

「たのむ。有馬をはめてくれ」

とでも言ったのではなからうか。

「赤兄」

有馬が相談をするために あずまや にやってくる。

そして赤兄は、葛城に仕込まれたとおりの計画を持ち出す。

・・・・・・というのが、一説目。

二説目は、天武が絡んでいること。

この事件の背景にはなぜか、天武が出てこないのである。

入鹿事件に関してもそうだし、いったいなぜか、ということを考えてみたことあるだろうか。

それは、有馬殺害、入鹿殺害の首謀者が、天武だった、という仮説を立ててみたので読んでほしい。

以前から仮説を立てるたび出すのが、天武ユダヤ人説。

ユダヤ人は商法などにも精通しており、非常に冷酷な面もある。だから、キリストを殺したときも残酷な方法をとったのだろう。天武の性格から考えてもそうで、有馬を殺すときも抜かりない。そのため、歴史から自分の汚い部分を消してしまったのだ。

それは、わざと天智を即位させることによって、自分の即位を正当化できるからであった。

その前に邪魔者は消さねばならない。

目の上のたんこぶ、それが有馬だった。

しかしただ殺しても正当化を主張できないので、策を練る。

それが赤兄の利用。

天武天皇は、いや大海人皇子は武勇にすぐれ、學術も達者というが、実は乱暴なだけだった。

ヴァイキングを知っていたら、たぶん理解が早いかもしれない。ノルウェーやデーンのヴァイキングは策略家であり、乱暴であった。

天武のやり方も実は似ている。
遠征もしたし。

思うに、吉野籠りをしたのは、有馬殺害からこうむる災いを避けるためだったのではないか。

全部兄貴のせいにはちやえと。

ある意味、ひどいな。

実は天智と天武は兄弟ではなく、他人だったと仮定できた。

天智は朝鮮系か何かで、天武がユダヤ。

となれば当然、対立もあった。

しかし天武は皇極たちに取り入って、何とか息子にしてもらえたのだろう。

でなければ、天智がなぜ妹をふたりも天武にあてがったのか、理由に納得いくはずがない。

ふつうはひとりが相場だった。

それにいくらなんでも、血が濃すぎる。

天武がユダヤ系ならば、そのことも承知していただろうから、実の姪などほしがるはずがなかったのでは？

ユダヤ社会では近親婚は禁じられていたのだから。

その渦中に引き込まれたのが、かわいそうな有馬だったということ。

有馬は天武から恨まれないように、狂ってごまかそうとしたが、

天武は狡猾で鋭敏な戦士。

「そのようなことで、朕は騙せない」

有馬はここで観念したのだろうか。

「はめましたね」

有馬は嘲笑するように笑う。

自分への嘲笑……。

天武は情けをかけてやり、歌わせたり干し飯を与えたところがあるが、実際は違っていた。

「俺が次期天皇だ、くやしいだろう。お前の父を見殺しにしたのが俺であることを思えば、お前はただの犬死を食らった、ガキに過ぎぬ。十九の人生を、せいぜい惜しみながら逝くのだな」

昔は天武が好きだったのに、やっぱりいやな人だったんだな。

伊勢神宮を建てた理由もわかつちやったし……。

呪術的な意味合いが深いダビデ。

あの星の形、じつは有馬とかを殺してしまったことの恐れとか、そういうのもあったんじゃないかな。

いろいろ知ってしまうと、結構つらいもんが……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0295a/>

有馬皇子

2010年10月8日15時50分発行